

## 中山道・木曾路の馬籠宿・妻籠宿を歩く

「木曾路はすべて山の中である」近代文学を代表する文豪島崎藤村の「夜明け前」の始まりの一行である。

本年の特別行事は、この秋の中山道・木曾路を馬籠宿から妻籠宿まで歩きます。

中山道は、江戸を起点とする五街道（東海道、中仙道、甲州街道、日光街道、奥州街道）の一つで東海道とともに江戸から京都を結ぶ重要な街道であった。この街道の道程は、江戸日本橋から武蔵国（埼玉県）上野国（群馬県）信濃国（長野県）美濃国（岐阜県）を通り近江国（滋賀県）草津で東海道と合し、京都に至る六十九次、132里（528キロ）の街道であった。

信濃国木曾を通るため、塩尻宿から中津川宿までの27里を木曾路とよばれ、16の宿場があった。なかでも馬籠宿・妻籠宿は古い建物、町並みがよく保存され国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

バスで馬籠に到着後、馬籠館にて少し早い昼食をとります。昼食、休憩後馬籠宿を散策しながら妻籠宿に向かいます。水車塚、今井家住宅、熊野神社等を通り馬籠峠に着きます。馬籠峠から下りなり、男滝、女滝、倉科祖霊社、石柱道標等を通り妻籠宿に到着します。

ウォーク距離は8キロ、木立の中、溪流沿い、古民家を見ながら歩く快適なコースですが、馬籠峠まで登りになりますので、より多くの方に参加いただけるよう「楽々コース」を設定します。楽々コースは、馬籠峠までバスで移動、妻籠宿まで歩きます。ここからは下りのみで約6キロ、2時間弱で妻籠宿に到着します。

靴もハイキングシューズ、運動靴で十分です。多数の方々のご参加をお待ち致します。

人数の制限上、会員外の参加は奥様までとさせていただきます。ご了承下さい。

**申し込み方法**

同封の振込用紙で、郵便局から振込み下さい。ご夫婦で参加の場合は金額を訂正の上、奥様のお名前も記入下さい。

**参加費用**                    5,500円/1人（昼食代含む）

**申し込み締切日**        10月15日（金）    先着90名様で締め切らせて頂きます。

91名以降の方は、申し訳ありませんが、返金させていただきます。

**キャンセルは**                11月1日（月）まで受け付けます。それ以降は返金できません。

(記)

◇ 日 時 11月11日(木) (雨天決行)

◇ 集 合 AM7時20分 ライティング社 西門前にご集合下さい。

◇ 行 程

	西門前	→	大山崎 I C	→	多賀 S A	→	内津峠 P A
行き	7:30		8:00		8:50~9:00		10:00~10:10
帰り	19:10		18:30		17:10~17:20		16:00~16:10

馬籠宿 → 妻籠宿

行き	11:10		
帰り			15:00 (集合場所 町営第一駐車場)

◇ ウォークコース

	馬籠館	→	水車塚公園	→	馬籠峠	→	男滝・女滝
快適コース	12:00		12:40		13:20		13:50
楽々コース	13:00		バスにて移動		13:20		

倉科祖霊社 → 石柱道標 → 妻籠宿 (集合場所 町営第一駐車場)

	14:10		14:40		15:00
--	-------	--	-------	--	-------

(道中、数箇所のトイレがありますので、都度案内します。)

◇ 昼 食 弁当は必要ありません。馬籠宿・馬籠館で昼食をとります。

◇ 携帯品 雨具、飲料水、嗜好品、スティック(杖)など。

◇ お 願 い 親しき仲にも礼儀あり。先頭の旗より先に行かない。しんがりの旗より後を歩かない。  
歩くこう会で撮影された写真の一部は、支部HPと支部便りに使わせて頂きます。不都合な方はお申し出下さい。

◇ 問い合わせ先 辰巳寛康 695-1128 平 英一 672-7765 富士永義文622-4482  
田村 薫 626-7747 秋山充久 674-9106 仲尾富三 677-8817

# 中山道自然歩道ごあんばい



## 妻籠宿

## 馬籠宿

**馬籠のめどる案内** 十四峠-中山道自然歩道-馬籠峠

**豊ひり北本徳助の碑** 木曾路と妻籠路の境にあり、文豪島崎藤村の揮毫によるもので、昭和31年11月の建立です。

**料形・料燈** 江戸時代、各宿場の入口には「料形」と呼ばれる空間が設けられていた。この料形には他の宿場には例のない島崎藤村に設けられていたため、まことに城郭を想わせる。

**芭蕉の石燈** 俳人松尾芭蕉が木曾路を旅したのは、享和5年(1808)8月、彼が9才の時でした。「送られつ、送りつ果ては木曾の萩」と更科紀行に残るこの句が、芭蕉を慕う地元人の熱い愛の手で建てられたのは、天保13年のことでした。

**一里塚** 徳川幕府は街道規模はもろしい定めを設けていましたが、一里塚はその制度の一つで、一里を36町(3.9km)とし、一里一年に土を盛つて塚を築き、みよりのりの目やすにしたり、輸送荷物引継ぎや駄賃計算の基礎にしました。当時のままの空や残存するものは少なく、貴重な史蹟です。

**十曲峠** 妻籠路は落合の宿場から馬籠宿にさしかかると、深い木立の中に石重が昔のままに残っています。峠(馬籠・木曾)石重は一種の舗装道路で、急な坂道の路面流失を防ぐために設けられたものといわれています。石重の坂を登りつめるあたりを「十曲峠」といい、妻籠路と木曾路の境になります。

**馬籠宿** 木曾川宿の一つで、妻籠との境にあり、急な坂道の高側(石)を精進川を渡り、宿場の中央には本陣、脇本陣、問屋などがあり、わかれた六名達の宿泊に備えられたほか、旅館や飯屋が軒をならべ

ていました。

**福村記念館** 馬籠宿本陣跡にある記念館、記念文庫、湯居所等と、馬籠本陣・島崎家がつづいてきたゆかりの場所です。

**馬籠宿本陣史料館** 馬籠宿本陣が大名宿泊の際に使用された語道、馬籠宿や、同家に残された宿場の文庫資料などが展示され、それらを通じてありし日の宿場の賑わいと当時の文化や人々の生活の様子を知ることが出来ます。

**清水屋史料館** 清水屋は初代から馬籠宿の組頭、そのほかの職方と、つとめた家々で、時代原一平氏は島崎藤村との縁交が深く、「馬籠」は、森さん、で考案されています。ここには、藤村書簡や馬籠の文化や生活を知る資料が展示してあります。

**ふる里の家** (民芸伝承型) 紳士文化普及に活用されています。

**永昌寺(徳政寺心宗)** 永禄元年(1558年)の建立といわれ、その後いくたびか建てかえられ現在に至っています。島崎藤村の「後明け前」では「浄土寺」として登場します。

**馬籠峠(徳政寺心宗)** 宝暦12年(1762年)の大火以来、火を免れ現在に至る此の集落には、江戸時代の貴重な建築遺構が多く残されている。かつては馬方や半方衆の宿として賑わった集落です。

**今井住宅** 峠集落の中ほどにある今井家は、国の登録文化財に指定されています。

**南木曾岳** 1677m

平均してなだらかな道

38km 1時間(歩)

バス10分

**馬籠宿** (標高495m)

峠へ上り 中山道が長く残っている

36km 50分(歩)

バス7分

妻籠宿へ下り

**馬籠峠** (標高800m)

峠へ上り

22km 40分(歩)バス10分

**馬籠峠** (標高800m)

峠へ上り

1.8km 30分(歩)バス10分

**馬籠峠** (標高800m)

0.3km 10分(歩)

ゆるい坂

**十曲峠** (標高450m)

3.5km 50分(歩)

10分バス

**馬籠宿** (標高330m)

